



2018年度CSR活動報告書

2019年 7月 株式会社エコスタイル

はじめに

「子供たちのため、次世代のために環境を守る義務と責任を遂行する」という使命の下、弊社は2015年度にCSR基本方針を策定いたしました。本活動報告書は弊社の取り組みをご報告する4回目の取り組みです。これまで以上に社会に貢献できるよう、そしてより良い取り組みに繋がるよう、活動を公開させていただきますので、ご意見、ご指導をいただけましたら幸いです。

社長メッセージ

国連において持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、また、COP21によるパリ協定の採択など、地球温暖化防止のために温室効果ガス排出量削減による持続可能な社会に向けた取り組みを推奨する動きが広がっております。また、環境（Environment）社会（Social）企業統治（Governance）というESG投資の潮流の中で、環境経営を重視する流れが明確になってきました。この日本においても、再生可能エネルギー電源が「主力電源」と位置付けられ、温室効果ガス排出量を2030年に2013年比で26%削減、また、2050年に80%削減、さらに2070年においては温室効果ガス排出量を実質ゼロとすることが明示されています。再生可能エネルギーが地球温暖化といった環境問題解決のために不可欠だということは周知の事実であり、「私たちの暮らしから遠い話」ではなくなりました。この再生可能エネルギーの普及という世界的な動きを、日本においてエコスタイルが引っ張ってまいります。

エコスタイルは、CSR基本方針として設定しておりました3つの柱をより密接にSDGsと結び付け、SDGsの達成に貢献することを強く意識しながら事業活動してまいります。それはつまり、再生可能エネルギーの普及だけに留まらず、顧客・従業員・社会という全てのステークホルダーに事業活動を通じて我々が働きかけていくということです。お客様や社会の課題解決、共に働く従業員の働きがいの向上、地域貢献といった我々の働きかけにより持続可能な社会が実現されると考えます。

エコスタイルは再生可能エネルギーの分野から、日本が抱える、そして世界が抱える課題にこれからも挑戦し続けます。

株式会社エコスタイル

代表取締役社長 **木下 公貴**



CSR活動における基本方針

『持続可能な社会』の実現に向け、「再生可能エネルギーの普及・促進」「環境教育」「ダイバーシティの推進」を基本方針として定めました。これらを実行することで私たちの社会的責任を果たし、持続的な企業価値向上に努めて参ります。

再生可能エネルギーの普及・促進

エコスタイルは、永続的に利用できる再生可能エネルギーを普及・促進させることで、次世代のために環境を守る義務と責任を遂行いたします。また、地域資源を生かした再生可能エネルギー発電所により、地域の更なる発展に繋がる取り組みを行います。



環境教育

エコスタイルは、事業活動を通じて獲得した再生可能エネルギーや環境に関する様々な知見を子供たちに伝え、広く社会と地球環境に貢献できる次世代を育成します。



ダイバーシティの推進

エコスタイルは、健全な職場環境の整備とともに多様な人材の採用・育成・登用を行い、様々な価値観を取り入れることで新たな課題にチャレンジし、お客様に満足いただける価値を創造します。



再生可能エネルギーの普及・促進

2018年度の施工実績

エコスタイルの2018年度の太陽光発電所の施工実績は87.5MW。

年間の総発電量が9,187万kWhとなります（1kW当たり1,050kWhとして）。

これは・・・

▶ 一般家庭20,000世帯あまりの年間電力消費を賄う発電量です。

（1世帯当たり4,400kWh/年）。

▶ 二酸化炭素（CO₂）年間削減量は、約41,387t-CO₂です（450.5g-CO₂/kWh）。

スギの木で換算すると約295万本分の年間CO₂吸収量、石油なら200リットルドラム缶約11万本の削減効果に匹敵します。



SDGs達成を目指す一員として

太陽光の固定価格買取制度（以下、FIT法）が始まって以来、再生可能エネルギー（以下、再エネ）の普及は急速に進みました。これまで、FIT法を利用した太陽光発電の推進により再エネの普及に努めてまいりましたが、年々単価が下がっていく中でエコスタイルはFIT法に頼らない太陽光発電の提供を目指し、現在新たなモデルの構築を進めております。昨年度も行っていたおひさまごっこプロジェクトやクールスポット事業にて提供した自家消費型太陽光発電システムは、いわゆるFIT法に頼らない太陽光発電の仕組みとなっています。今までではCSR活動の一環として行ってまいりましたが、SDGs等のニーズが高まる中で、自家消費型太陽光発電は企業が環境経営を行う上で大きな役割を担う事が出来ると考えております。そのような企業向けに再エネの普及、クリーンな電気の供給を事業として行う事で、SDGs達成を目指す一員として、日本の企業の後押しをできればと考えております。



エコの輪 おひさまこっこプロジェクト

幼稚園・保育園等の教育施設へ最大10kW程度の自家消費型太陽光発電システムを無償で提供するという企画、“エコの輪をひろげよう！おひさまこっこプロジェクト”を2017年度10月より始動いたしました。

本プロジェクトを推進する背景には、人々が地球温暖化を身近な問題として捉えることが難しいという課題があります。近年、地球温暖化により、異常気象や海面の上昇、生態系の異変など、地球環境に対して様々な影響を及ぼしています。この問題を「私たちの暮らしから遠い話」にするのではなく、一人ひとりが当事者意識を持ち、未来の地球環境のため自分にできることはないかを考え、行動を起こす事が求められています。

そこで当社では、本プロジェクトを通じて幼稚園・保育園等の教育施設へ太陽光発電システムを寄贈することで、再生可能エネルギーの普及に貢献するとともに、幼少期から子供たちに再生エネを身近に感じてもらい、地球環境に対する関心を高めるきっかけとなる事を目指して、“エコの輪をひろげよう！おひさまこっこプロジェクト”的活動を開始いたしました。



本年度設置が完了し、2018年8月30日、プロジェクト第1号となる大阪府松原市の保育園「青い鳥学園」（理事長：島田香）への寄贈を記念して、セレモニーを実施しました。

今回のセレモニーでは、園児の皆さんに地球環境に対して関心を持つてもらえよう「環境と太陽光発電」のお話を、イラストを用いてわかりやすくお伝えしました。最後には園児の皆さんから、歌のプレゼントがありました。エコスタイルに向けて「手のひらを太陽に」を元気いっぱい歌っていただき、大変和やかな雰囲気でセレモニーを終える事ができました。

再生可能エネルギーの普及に向けて本プロジェクトは今後も続けていく方針です。



クールスポット事業（エコスタイル×大阪府）

大阪府では、「大阪府環境保全基金」を活用し、屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善することを目的に、民間の敷地内にクールスポットをモデル的に創出する「クールスポットモデル拠点推進事業」を民間事業者等への補助事業として実施しています。こちらの趣旨に賛同し、協定の締結を行いました。当社はCSR活動の一環として、クールスポットの暑熱環境改善設備等の稼働又は維持に用いるための自家消費型太陽光発電設備（概ね10kW以内）を無償設置いたします。本取組をきっかけとして、太陽光発電の利用拡大をすすめ、再生可能エネルギーの普及に貢献してまいります。

本年度は公募の結果、大阪経済大学のクールスポットにパネルを提供することが決定。本年3月に設置工事が完了いたしました。



施工完了日：2019年3月12日
設置場所：大阪経済大学 大隅キャンパス
出力：8.25kW

このクールスポットは、140mの歩道に12本の桜を植え、壁面緑化やミスト発生器が整備されるなど、地域の方々の憩いの場になるよう作られています。エコスタイルの設置した太陽光設備は、このミストを発生させるための電気を発電する役割を担っており、災害時には非常用電源としても利用できるようになっています。

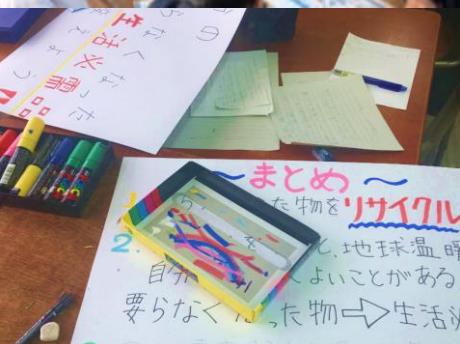
設置後、同大学にて施設のお披露目会が開かれました（2019年6月18日実施）。この日は大阪北部地震からちょうど1年ということもあり、この場所の開設で改めて防災意識を高める機会にしていきたいという学長からのご挨拶もありました。エコスタイルも、大阪府と提携しこのような取り組みを続けていくことで、再生可能エネルギーの普及だけでなく、地域の方への環境、減災への意識を高める活動を行ってまいります。



ミスト散布の様子。ここに太陽光パネルで発電した電気が活用されています。



関係者によるテープカットの様子



環境教育

「子供たちのため、次世代のために環境を守る義務と責任を遂行する」という使命を達成するために、より多くの子供たちに自然との共栄の重要性を伝えることができる環境教育プログラムを実施しました。

キャリスタ

(実施時期：2018年12月12日～2019年1月30日)

大阪市内の中学校の1年生約140名に向けて、環境教育を実施いたしました。実施校が以前より独自で行っているキャリア教育授業の一環で、エコスタイルは本年度で4度目の参加となります。大阪市内の中学校とエコスタイル、そして大阪市が協力し、授業を行います。

2018年12月から1月にわたって全5回の授業を行い、1年生4クラスの生徒を対象に「Stop 地球温暖化！まちの人たちのエコアクションを広げる方法を考えよう！」というミッションを与え、チームでエコアクションを広めるにはどうすれば良いか考えていただきました。最終回では各チームのプレゼン発表を行い、各チームのアイデアのFBや表彰を行いました。

本プロジェクトは、生徒たちに環境問題や再生可能エネルギーなどに対する興味や関心をもつてもらう事や、仕事や企業に対して前向きにとらえ、生徒たち自身のキャリアについて考えるきっかけづくりを目的としております。

職場体験（加美南中学校2年生対象）

（実施時期：2018年7月6日・7日）

7月6日(木)・7日(金)に会社として2度目となる職場体験の受入れを実施いたしました。職場体験とは、文部科学省が推進する「キャリア教育」の一環です。職場体験が求められる背景として、子どもたちの生活や意識の変容、学校から社会への移行をめぐる様々な課題、そして何よりも、望ましい勤労観、職業観を育む体験活動等の不足が指摘されています。生徒が直接働く人と接することにより、また、実際的な知識等に触れることを通して、学ぶことの意義や働くことの意義を理解できるきっかけとして推進されています。

エコストyleでは、「子供たちのため、次世代のために環境を守る義務と責任を遂行する」事を使命として掲げています。職場体験の受入者は、その未来を担う子供たちに向けて、環境に関する知見をお伝えするだけでなく、「働く意味を考えるきっかけ作りをする」ことを目的としています。本年度は、「会社」には様々な業務があり、それに携わる人がいて「会社」が成り立っていることを、生徒に肌で感じてもらう職場体験プログラムを用意しました。

様々な部署があり、たくさん的人がいろいろな仕事を担当していることを伝えた上で、部署の仕事内容説明も簡単に行いました。部署によっては社員が今やっていることを見せながら説明をしてくれたりもしました。

また、事業説明をし、その流れでCSR活動について説明。実際に「おひさまこっこプロジェクト」の幼児への環境教育プログラムの企画をして頂きました。正解は無く、いろんな意見を出し合ってそれを実現させていくことが大切なのだと伝えると、中学生らしいフレッシュなアイディアをたくさん出してくれました。他にも、部材の手配などを実際に体験して頂きました。



第18回エデュケーションチャレンジ

(実施時期: 2018年7月23日 主催: 日本経済新聞社)

日経エデュケーションチャレンジとは、社会の最前線で働く大人たちが先生となり、働く楽しさや仕事への情熱を高校生に伝える「キャリア教育プログラム」です。先生自らのキャリアを題材に、高校卒業後の進路や、今の仕事を選んだ理由、そしてイノベーションを実現するまでの苦労や失敗など、リアルに語る授業内容となっています。本イベントを通じて、次世代を担う高校生の皆さんのが未来を考え、ビジョンを広げていくきっかけとなることを開催の趣旨としています。

「子供たちのため、次世代のために、環境を守る義務と責任を遂行する」ことを使命としている当社では、2015年（第15回）から、このプログラムの趣旨に共感し、CSR活動の一環として協賛しており、本年度で4度目となりました。



今回は、「あなたの思いが未来をつくる」というタイトルのもと、代表取締役社長木下自らが登壇。授業内では地球温暖化問題に触れながら、再生可能エネルギーの必要性や当社の事業について紹介しました。また、今のエコスタイルになるまでには決して順風満帆な道のりではなく、倒産寸前のどん底から、皆の思いで売上100億円を超える企業になつたという成長の軌跡をお話しました。一度しかない自分の人生を幸せに、存分に楽しんで」と高校生の皆さんに熱いエールを送りました。

成績 300番台/450人中
九州予選 1998年入賞/1999年優勝
大学受験3回失敗
神戸大学経営学部第二種複合計学科(1990年入學/1993年卒業)
公認会計士試験不受験

なぜ、成長できた?

自分が社長だったら、成果を出すために何を大切にする?
考えてみよう!!

仕事・事業で成果を出すために
大切なことはなんだろう?

EcoStyle

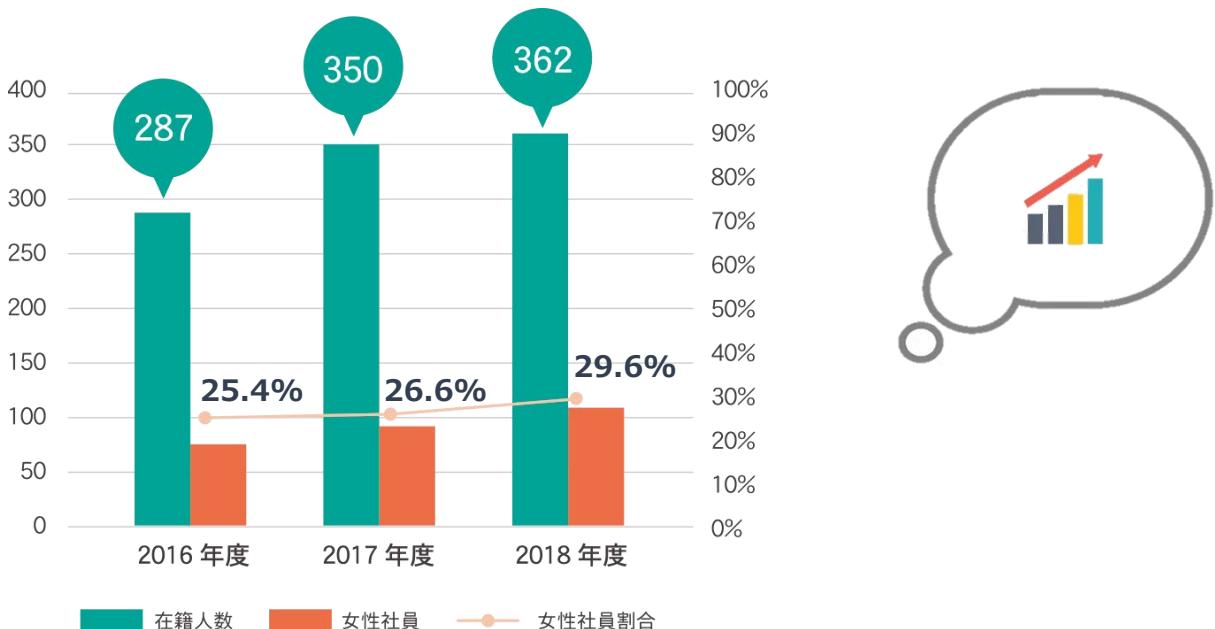
授業を受けた高校生からは、「仲間を大切にする、壁は必ず乗り越える、一番だめなことは何もないことなど、ためになる言葉をたくさんいただくことができて、すごく刺激になった。自分に吸収しようと思った。」「何事にも挑戦することが大事ということがわかった。地球環境について興味を持った。」などの声が寄せられました。

ダイバーシティの推進

事業の拡大とともに社員数も急増してきたエコスタイル。多様な人材が価値観を共有し、切磋琢磨しながら挑戦をしていくことが企業の成長に繋がると考えています。

女性のキャリア形成と就労継続を目標に女性従業員がやりがいを持って生き生きと働くことができる職場環境、引いては社員全員がより安心して働ける会社を目指します。

2018年度末時点でのエコスタイルの総従業員数は362名。女性社員の割合は約30%を占めており、2017年度と比較すると約3%の増加となりました。エコスタイルでは、女性活躍推進法や、次世代育成支援対策推進法に則った会社づくりを進めるために、現在整備をすすめています。



株式会社エコスタイル 働きやすい環境整備のための行動計画策定

将来にわたって持続可能な会社と社会を実現するためエコスタイルが挑戦し続けるためには、担い手である「人財」が重要であると考えます。

従業員一人ひとりがいきいきとやりがいを持って働き、持てる力を最大限に発揮して会社と社会に働きかけ、ともに成長できる職場環境づくりを目指します。

全従業員がその能力を発揮し、仕事と生活の調和を図り働きやすい雇用環境の整備を行うとともに、全従業員がより活躍できる雇用環境の整備を行うため、2019年度以降の行動計画を策定いたしました。

目標 1：管理職（課長級以上）に占める女性割合を7%以上にする。

目標 2：年次有給休暇の取得率5割以上を目指す。

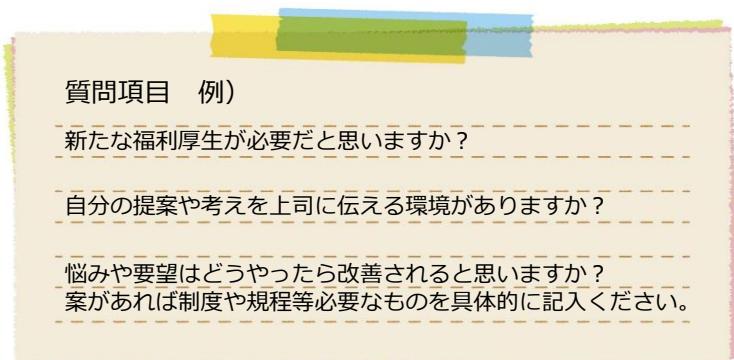
目標 3：所定外労働時間を月平均25時間以下にする。

目標 4：離職率を10%以下に削減する。

全社員アンケートの実施

2018年度は女性営業社員の人数が11名と過去最高人数に、新卒採用で入社した社員から役職者が登用されるなど、年齢や性別、経験年数にとらわれない人材登用が実現されるようになってきました。新卒採用が導入されてから、社内で活躍する人員構成が大きく変わりつつあります。それに伴い、社内の制度も変えていく必要があるということは、エコスタイルが現在抱える大きな課題の一つと言えます。様々な社員が働く職場にとって、一人ひとりの声を聞くこと、さらには実現を目指すことは理想的ではある反面、困難な事です。しかし、この変化をエコスタイルの1つの転換期とするため、2018年11月ー12月に全社員対象のアンケートを実施いたしました。

アンケートでは下記のような簡単な項目を設け、社員数の9割を超える回答が集まりました。



アンケート結果は、2019年度以降の行動目標の設定の際に参考にされました。アンケートによって見えてきた課題一つひとつに向き合い、改善がなされるよう、今後も取り組みに力をいれてまいります。

部活動制度

社員同士がより良い関係を築くことを目的とし、2016年度にスタートした「部活動制度」。3年目を迎えた2018年度には、新たに3部発足し、総部数11となりました。運動系の部活動だけでなく、英会話という教養的な活動も承認されています。



今後の取り組み

CSR基本方針を策定のち5年目を迎える2019年度もこれまで同様、事業活動を通じた「再生可能エネルギーの普及・促進」に加え、「環境教育」の充実を図ります。おひさまこっこプロジェクトなど2018年度の活動は来年度も継続しつつ、企業向けにも自家消費型の太陽光発電所の設置を推奨していくことで、更なる国内全体の再エネの普及を、SDGs達成に向けて推進してまいります。

また、男女関係なく社員全員が働きやすい職場環境づくりを目指し、更なる社内制度の整備や取り組みの改善に努めます。



会社概要

会社名	株式会社エコスタイル
会社設立	2004年10月5日
資本金	605百万円
代表取締役社長	木下 公貴（きのした まさとか）
従業員数	371名（2018年7月1日現在）
東京本社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 丸の内永楽ビルディング20階
大阪本社	〒541-0045 大阪府大阪市中央区道修町1丁目4番 6号ミフネ道修町ビル3階

事業内容	投資型太陽光発電事業 自家消費型太陽光発電事業 太陽光発電事業 電力小売事業
売上高	15,968百万円 ※2019年（平成31年）3月期
加盟会員	太陽光発電協会 会員 自然エネルギー協議会 準会員 日経ESG経営フォーラム 特別会員 宅地建物取引業協会 会員 全国宅地建物取引業保証協会 会員 不動産流通機構 会員 第二種金融商品取引業協会 会員 日本卸電力取引所 取引会員 電力広域的運営推進機関 取引会員 日本太陽エネルギー学会 会員 Japan-CLP 贊助会員 環境省 企業版2℃目標ネットワーク支援会員



お問い合わせ先

- ・ 株式会社エコスタイル (担当部署：経営企画部)
- ・ 所在地：〒541-0045 大阪府大阪市中央区道修町1丁目4番6号
- ・ メール：kikaku@eco-st.co.jp
- ・ U R L : <http://www.eco-st.co.jp/>

